

**【なつかしい大平食堂】**

今年4月中旬頃、久し振りに弁護士会館の地下の大平食堂をのぞいたところ、3月末で閉店しましたとの表示があり、さみしい気持でいっぱいになりました。昨年秋に立寄った時は、何十年来の顔見知りのおかみさんと昔話が止らず、その時はまだまだ店は続けるものと思っていました。

私が二弁に登録したのは、昭和39年4月（16期）で戦後20年近くを経て、日本経済は急激な発展を遂げ、東京オリンピックが開かれ、東海道新幹線も開通した年でした。

今の弁護士会館は平成7年に竣工していますが、それ以前は日弁連と東京三会が別々に会館を持っていました。二弁の会館は地上3階・地下1階で、1階が会員控室と事務室、2階が役員室と図書室、3階が講堂、そして地下に大平食堂がありました。大平食堂の店主渡辺さんはこの地下に住み込み、二弁会館の管理も行っており、戦前から続けていると言っていました。何十年も通った大平食堂がなくなり、本当にさみしい思いでいっぱいです。そこでこの食堂の思い出話をしたいと思います。

【すばらしいOJTの場】

私が登録した年の二弁会員数は、800人位で、16期の入会者は30人程でした。このころは自宅を事務所としている会員も多く、会館の会員

**鈴木 誠** (16期)

●Makoto Suzuki

控室を使って仕事をしている会員も大勢いました。当時、私のような新米弁護士が法廷を終えて会員控室に寄り記録などを見ていると、そこで仕事をしている先輩の先生から声をかけられ、すぐ顔見知りになることができました。昼時になるとこの先輩から昼食に誘われ、行くのは決まって地下の大平食堂でした。勿論先輩のおごりです。定番メニューは「柳川」か「肉鍋」で、それを交互に注文していた記憶があります。ここで先輩から仕事のこと、勤務先のこと等を訊かれ、私も迷って

いること、悩んでいることなどを相談させてもらい、食事をしながら話が盛り上がりました。

そこでの話は研修所のカリキュラムにないようなことも多く、依頼者に対する対応の仕方や、「手遅れ医者」ではないけれど、決してあまい見通しを云うな等々でした。2～3年経った後は独立のタイミングとか、依頼者の獲得方法とか、報酬を切り出すタイミングとか、ボス弁には相談できないような事柄も多くありました。1対1の同じ目線で、大先輩から、しかも食事をご馳走になりながら指導してもらったことが、その後50年の私の仕事の大きな糧となりました。これ以上のOJTはなかったと思っています。

その後、久し振りに弁護士会館の二弁会員控室に立寄ってみました。天井が吹抜けで高級な応接セットが置かれ、窓側に座ってみると眼下に日比谷公園、その先には丸の内ビル街と、正に絶景でした。しかしそこに居たのは私の外2人で、30分程居ましたが、この間の人の出入りはありませんでした。もったいない気持とともに旧会館の会員控室が脳裏をよぎり、大変さみしい思いがたち込めてきました。

■

Hanamizuki

花水木

30



私は弁護士として働きはじめ5年目ですが、現在の事務所が3つ目になります。5年で3事務所ですから、なんとも辛抱がないと言われてしまいそうですが、今思えば、この経験が今の自分を作っていると感じています。

最初に入所したのは、比較的、建築・不動産関係の事件の多い事務所でした。入所当初は「ろせんかず」と聞いて、頭の中で変換ができないほど分からないことばかりでしたが、多くの案件に携わらせて頂き、徐々に建築・不動産案件への理解を深めていきました。夜7時以降に残って仕事することはほとんどない、非常にワークライフバランスのとれた事務所でした。

しかし、常に何かをしたい性分の私は、夜に予定がないことが耐え難く、ひたすら何かしらの予定（主に飲み会）を入れていたのですが、次第にその間仕事に追われている同期に遅れをとっているのではないかと不安に駆られ、もっと仕事に打ち込むべく、転籍を決意しました。

そうして入所した事務所は、企業法務を扱う事務所です、その希望どおり仕事に追われ、終電までに帰れることがほとんどなくなり、日の出後に家路につくことも度々ありました。当初は、これが弁

護士のあるべき姿だと思い、また、これまでと違う分野に触れ、日々、充実感を味わっていました。

しかし、長くは続かず、ついに身体を壊しました。そこ



堀岡 咲子 (65期)

●Sakiko Horioka

ようやく仕事の在り方を見つめ直し、寿命を縮めてまで仕事をする必要はあるかと自問自答した末、再度転籍を決めました。

そうして入所したのが現在の事務所です。現在は日々忙しくも、速やかに仕事を終わらせて早く帰ることが推奨されており、自らの意思で遅くまで残ることこそあれ、それが強制されることはありません。体調もすっかり回復し、尊敬すべき上司とよい同僚にも恵まれ、充実した日々を送っています。

このように書くと、過去の

事務所が嫌だったかのようにも聞こえてしまいそうですが、両事務所での経験には、感謝の思いしかありません。

最初の事務所での経験をさせて頂いたおかげで、有り難いことに建築・不動産に関する書籍をいくつか出版させて頂く機会を頂きました。次の事務所でも教えて頂いた企業法務のイロハは、現在の仕事の基礎になっています。遅くまで働いていた分か、教えて頂いたことは、何年分にも相当するものであったと今では思うに至っています。

最後にもう一つ、今の私を作っているものであろう、会派活動についても触れたいと思います。会派に入ったのは登録2年目を経過してからですが、会派活動を通じて、たくさんの弁護士の先生方と交流する機会に恵まれました。先の書籍の出版もその1つですが、会派活動からのご縁で、社会的耳目を集めるような大きな案件に携わらせて頂くなど得難い経験もさせて頂きました。

今の私は、上記のような経験とご縁に支えられていると思います。弁護士人生は、これから先の方が長いと思いますが、感謝を忘れずに、これからもより一層成長していきたいと考えています。 